



アラカルト

海外鉄鋼事情-3

# Prince of Songkla大学遊学記 (第1報)

A Report on Study Stay in Prince of Songkla University (Part 1)

八木順一郎 東北大学 名誉教授

Jun-ichiro Yagi

すでに20年以上の年月が経過しておりますが、東北大学選鉱製錬研究所(当時の研究所名で、科学計測研究所、非水溶液化学研究所とともに現多元物質科学研究所を構成した)に当時の矢沢彬所長のご努力で、留学生特別コースが設置され、毎年5名の外国人留学生が国費留学生として受け入れられ、3年間研究した後博士の学位を取得された方で、帰国後母国で研究教育に貢献されている方が多数おられますが、Department of Mining and Materials Engineering, Prince of Songkla UniversityのDept. Headを務められているDr. Lek Sikongもそのような方の1人です。彼が私の東北大学定年退職(2005年3月)の半年くらい前に私の研究室を訪れ、退職後にPrince of Songkla大学の客員教授として6ヶ月滞在することを要請されました。その約1年半後にこの話の実現し、タイ南部のHat Yai市にありますこの大学にやってまいりました。

仙台から2006年7月10日にSeoul乗り換えBangkok行きのASIANA航空に搭乗しましたが、あいにく、台風3号が九州の南西側を通過して朝鮮半島に向かっていている時で、Seoulでの乗り継ぎが心配されましたが、幸い台風が速度が予想より少し遅くなり、台風の数時間前にSeoulを無事通過し、予定どおりBangkokに到着、1泊の後、11日の朝のタイ国内機にてHat Yaiに着きました。この日はタイでは休日でしたが、Dr. Lekと奥様が空港に出迎えてくれ、用意してくれた大学のGuest Houseにはいりました。このGuest Houseは大学のCampusの一番奥にあり、中央部にありますFaculty of Engineeringの各学科までは徒歩で、15分くらいかかります。

このCampusの正門前にはTesco-Lotusという巨大なSuper Marketがあり、ほとんど日常生活に必要な品は購入できます。しかし、Guest HouseはCampusの反対側にあり、徒歩ですと広いCampusを通過するのに30~40分かかり、重い買い物をすると運ぶのが大変です。そこで、Tuk-Tukというタイ特有の交通手段を利用することになります。

料金はSuper MarketからGuest Houseまで20Bahts(約60円/人)で大変安いです。

タイの人は日中の気温が高いせいか、歩行者や自転車を利用する人が極端に少なく、ほとんど車かバイクに乗っています。私は毎日散歩がてら歩いていますが、徒歩通勤の人に会ったことは全くありません。しかし、一方では、通勤の途中にある大きな池の周りにつくられた遊歩道を朝夕にランニングする人が沢山います。いずれもダイエットが必要には見えない体形の人が一生懸命着ているTシャツを汗で濡らしながら走っています。健康管理、体力の維持に気を遣っている人が多いようです。

さて、Prince of Songkla Universityですが、タイ南部では最大の総合大学で、Hat YaiのCampusが最大ですが、そのほかにPattani, Trang, Phuket, Surat ThaniにもCampusを持っており、合計3万5千人の学生を抱えています。学長は1人ですが、副学長は15人います。学長がDept. Mining and Materials Engineeringの出身である上、副学長の1人も同学科の教官ですので、工学部の材料系は大学の運営にも大変貢献されていることになります。

この大学の学長は私が参りました2, 3ヶ月前に交代されたばかりですが、新学長になられたProf. Boonsom Siribumrungsukha, (President)は、約20年前に学振の共同研究員として、私の研究室に数ヶ月滞在されたことがある旧知の友でしたので、大変歓迎していただき、彼がPhuketにある同大学のCampusで会議を開かれる機会に私と家内をPhuketに招待してくれました。Hat YaiからPhuketまでは約500kmありますが、飛行機がありません。車を使って、7月22日から3泊4日でPhuketに行ってきました。片道8時間(途中の、昼食、休憩を含む)かかりましたが、車でしたので途中の観光地Krabiにもよることができました。帰りには津波の被害がもっとも激しかったといわれているPhang-Nga ProvinceのKhao Lak地区の状況も見てきました。

Sumatra地震による津波は2004年12月26日に発生していますので、一年半余りの月日が経過していますが、海から3Kmも離れた陸地に津波に運ばれた船がそのまま放置され、また、新しい家屋の建築が進められている様子などを見ると、津波のすさまじさを実感させられます。しかし、PhuketのBeachはほとんど復旧されており、町並みも整備され、16年前に来ました時と同じように多数の観光客でにぎわっていました。

この大学はCampus内に職員の宿舎、学生寮があり、相当数の人が住んでいます。したがって、教育・研究の施設のみならず、銀行、郵便局、コンビニ、ガソリン・スタンド、本屋、散髪屋、クリーニング屋、レストラン、カフェテリアなどもあり、特に、カフェテリアはあちこちに沢山あります。その上、月、水、金の週3回Campus内にOpen Marketと称して、多くの食料品を売る店が開店します。タイの人々は料理されたものを買って帰るか、外食することが多く、このMarketでも料理の材料と並んで、すでに調理されたものが多く売られています。大学のカフェテリアで食事しますと1食当たり20～30Bahts (60～90円)の安さです。非常に辛いものがあり、私には何でも食べられるというわけには行かないところが問題です。衛生管理には若干の疑問があり、下痢をしないように注意する必要があります。私ども夫婦もPhuketに旅行した直後のやや疲労を感じている時に食べたものが悪かったのか、ひどい下痢に襲われ、大学病院のお世話になってしまいました。町にある立派なレストランに行きますと200Bahtsくらいかかります。その代わり、衛生面は問題なくなります。しかし、それでも特殊なものがあり、100%安全ということは保障できないようです。私どもの下痢は町での食事の後でおこりました。しかし、たいていは大丈夫です。旅行中でホテルやしっかりしたレストランで食事をしていればまず問題ありません。

8月にはScience Dayということで、17～19日の3日間大学が公開され外部から見学者が大勢学内に入ってきました。小学生、中学生、高校生が非常に多いのですが、この行事は政府の奨励で行われ、教師の引率で来ているとのことでした。生徒達は後でレポートを提出しなければならないので、種々の研究紹介をしているBoothを熱心に見て回っています。私も当日はこの行事の一環としてOne Day Seminarを担当し、燃焼合成法による水素吸蔵合金の製造の講演を行いました。聴衆は一部の教官と学生でしたが、Dept. of Mining and Materials Engineeringの教官の中に燃焼合成法を研究テーマにされている方がいますので、興味を示した学生もいたようです。私の英語の講義で何処まで理解できるかがやや問題になりそうです。

このScience Dayにあわせて、タイ全土から集まった露天

商が11～20日の10日間学内の空き地に店を連ねにぎやかに客集めをしています。本当に多くの店があり、飲食店、野菜、果物、衣料品(タイシルクを含む)、雑貨、家具、花、盆栽、装飾品、ペット、自動車(日本車も出店)、マッサージまであります。日中は暑いので、夕方から深夜にかけてもっとも賑わいます。やはり、バーベキューセットを持ち込み、鳥を焼くにおいを漂わせている店が熱気をかきたてている様です。これらの出店は大学に場所代を支払わねばならないようで、相当の売り上げが期待されているようです。

9月21、22日にこの大学の卒業・修了式が行われました。本年度の卒業生は5925名で、3月に終了しておりますが、卒業・修了証書の授与式が9月に行われました。タイでは、4、5月が最も暑い時期で夏休みです。6月から第1学期が始まり9月に終わります。10月初めに期末試験があり、その後は期末休みで11月に第2学期が始まり3月に終わります。卒業式当日はこの大学では5つのCampusの全卒業生がHat YaiのCampusに集まります。卒業証書はRoyal Familyの一員から卒業生一人一人に手渡される伝統になっています。本年は3人おられます王女様のうち一番若いChulabhorn王女が来られました。日本の大学の卒業式は段々簡素化の方向ですが、こちらではかなり華やかに執り行われます。前日の20日にはCampus内のあちこちに卒業を祝う看板が立てられ(写真1)、四角の縁に房のついた黒い帽子をかぶり黒のガウンを着るといった伝統的なコスチュームの卒業生があちこちでお祝いに来た家族や友人と記念撮影をしておりました。卒業生は全員このいでたちで王女様から卒業証書を拝受したのです。また、花束や記念品を売る出店がCampus内の道路沿いにある屋根つき回廊を埋め尽くし、華やかな卒業式風景を呈しています。ところが、本年は19日の夜から20日の未明にかけクーデターがおき20日は休日になってしまいました。しかし、このクーデターはThaksin首相への多くの国民の反



写真1 卒業式当日のPrince of Songkla大学工学部本館前

発を踏まえたものであったこと、成功した直後にクーデターを主導した Sonthi 司令官から早急に選挙を行い民主的政府を樹立するという発表があり、Bhumibol 国王 (Rama 9 世) も容認したため、社会的な混乱はほとんど起こりませんでした。国王は国民から大変信頼されています。国王の黙認はこれ以上混乱が起こる可能性がないことを示しているようでした。また、中産階級や知識人はこのクーデターを支持しておりました。しかし、この国の民主主義はレベルが低いことを世界に向けて露呈してしまったことは残念な結果だと思えます。クーデター直後でしたが、この大学の卒業・終了式典は予定どおり行われました。

Department of Mining and Materials Engineering から本年は 21 名の学部卒業生と 5 名の Master コース修了生を出しておりますが、PhD コースはありませんので博士号の取得者はおりません。現在、設置を申請しており、まだ確定はしていないようですが、来年度からはほぼ PhD コースが設置されることになっているようです。本年は卒業生全員就職が決まっているとのことで、19 日に学科でお祝いの昼食会が開かれましたが、学生も教官もにこやかに卒業を祝っておりました。

本学科の教官は一部のごく若い教官を除き全員 PhD ホルダーです。USA、UK、フランス、オーストラリア、日本など海外の大学で PhD を取得していますので、全員語学は大変堪能です。問題はタイの工業は外国からの企業を中心であり、これらの企業は本国に研究・開発の機関を持っており、タイの工場では製品の製造のみで開発は行わない企業がほとんどのようです。したがって、大学との共同研究も少なく、それが工学における大学の研究レベルが上がりにくい一因になっているようです。

前述の写真 1 は工学部本館の正面につくられた立看板を撮ったものですが、後ろの本館の建物は非常に特殊な構造になっており、鉄筋コンクリートの屋根を鉄骨で支え、その下に強度的には独立した木造の部屋が作られています。部屋の天井と屋根の間に大きな空間があり風とおしのよい構造です。このような構造は工学部の本館および別棟になっている Dept. Mining and Materials Engineering と Dept. Mechanical Engineering の実験室の建物のみで、その他の建物は通常の直方体のビルになっています。

私は学科内に研究室を 1 部屋お借りして、毎日そこに通い、講義の準備や国際会議開催の手伝いなどをしております。講義は 7 月の 3 週目に製鉄プロセスの最近のトピックスについて、学部 3 年生に 3 回行いました。これは通常期における学部生の講義の一部になっています。9 月には学部 2 年生に対する講義科目である移動現象論の一部として、製錬プロセスにおける熱と物質の移動現象の解析について 6 回の講義が組

まれていましたが、実際には、クーデターと卒業式で 2 回休講になり 4 回になってしまいました。

こちらに来てから既に 3 ヶ月が過ぎ、予定の滞在期間の半分が終わりました。終わってみますと早いものであったという間に過ぎ去ったという感じです。最近、タイではいろいろなことが生じ驚かされます。一般人の生活にはほとんど影響ありませんが、国全体としては重要な問題が生じていることは間違いありません。9 月に発生しテレビや新聞で報道されました 3 件の状況は下記のとおりです。

9 月 16 日に Hat Yai の Downtown にあります Odean Department Store 前の路上で、バイクを利用した爆弾テロが発生しました。このテロにより死者 4 名、負傷者 70 名以上と報じられました。その他数箇所でも、同時に爆発が起こったようですが、小規模で被害はなかったようです。この日はモスLEM 過激派の結成記念日だそうで、当局も警戒していたようですが場所を特定できず、阻止できなかつたと伝えられています。タイでは国民の 95% が仏教徒でありモスLEM は 4% ですが、Malaysia との国境沿いにある 5 県、Narathiwat、Pattani、Yala、Songkhla、Satun にはかなりの割合でモスLEM の住民がいます。2 年ほど前から前 Thaksin 首相の政策に反発し、昨年 4 月、本年 6 月に死傷者が出るテロ事件が発生しています。そのため外務省から危険地域に指定され、渡航中止勧告が出ています。Hat Yai はこの意味では安全なところとはいえませんが、普段は街に行きましても泥棒や強盗の危険はほとんどなく、その意味では安心できます。私の生活はほとんどが大学の Campus 内であり、全く危険は感じておりません。ここで、政府が変わりましたのでテロ活動が収束すると良いのですが、クーデターの指導者である Sonthi 司令官はモスLEM だそうです。なお、9 月 19 日のクーデターにつきましては前述のとおりです。

9 月 28 日には Bangkok の新空港が開港しました。従来の Don Muang 空港から Suvarnabhumi 空港に変わりました。旧空港は Bangkok の北側 20Km くらいで都心からそれ程遠くなく、また、アクセス鉄道もあり便利でしたが、新空港は Bangkok の東 30Km と遠くなり、市内への交通もまだ整備されていません。来年 11 月には鉄道を開通させると言っていますが、どうなりますやら？ 空港は立派になったのですが、Bangkok の交通渋滞を考えますと不便になったともいえます。

何しろ Bangkok の交通渋滞は世界一だそうです。8 月に参りました時、夕刻のラッシュ時に都心部に車に乗りましたときにはしばらく様子を見ていましたが、余りに進まないのであきらめて車をおり、BTS (スカイトレインという高架式鉄道) に乗り換えました。あと 3 ヶ月、どんな出会いがあるか楽しみです。

(2006 年 10 月 17 日受付)